イスラーム世界研究　第4巻1–2号（2011年3月）268–269頁
Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies, 4-1&2 (March 2011), pp. 268–269

小特集「環インド洋地域におけるイスラーム復興」
編者序言

この小特集は、環インド洋地域における宗教復興と社会的な諸価値の変容を研究するプロジェクトの一環として企画された。プロジェクトでは、とりわけ、テクノロジーや科学などの変容が現代社会を大きく変容させていることを視野に入れ、そのような変容と宗教的な価値観や倫理がどのように結びつき、連関しているのか、あるいは連関しながら変容しているのかという点を考究することを目的としている。

そのことを考える上で、インド洋を取り囲む諸地域の中で、どのような宗教復興が起きているかを理解することが不可欠である。宗教別に見ると、イスラームと並んで、ヒンドゥー教、仏教、さらにはキリスト教などが大きな役割を果たしている。この小特集では、まずイスラーム復興について概観を得るように努めたい。

その背景には、2つの問題意識が存在する。第一に、地域研究における「地域」のあり方が20世紀後半から流動化していることである。「中東」「南アジア」「東南アジア」といった地域の区分は、近現代において世界が一体化すると同時に、諸地域が変容を遂げる動態的な歴史的な過程の中で形成されただけに、20世紀半ばに帰結したそれぞれの地域のあり方はそれなりの安定性をもつようになった。たとえば「中東地域研究」のように、「〜地域研究」と地域名を冠して地域研究をおこなうのは、その安定性を前提としているためである。

しかし、地域の形成そのものが動態的な過程の中で生じたことからも明白なように、地域のあり方や区分は、すべての時代を超えるような静的な要素に規定されているわけではなく、時代の変化とともに地域の区切りが変わるとしても、それは驚くべきことではない。特に、冷戦が終焉すると、冷戦構造の中で地域区分を維持するように働いていた力は弱まり、さらに、グローバル化が進展するに従って、地域としてのまとまりが弱まったり、超域的な現象が顕在化することも、さまざまな局面でおこるようになった。

それに加えて、中東をめぐっては、イスラーム復興が地域変容の契機をもたらした。最初は、イスラーム復興は中東特有の現象と考えられたが、その後、次第に他の地域でも類似の現象が顕在化するようになり、イスラームを共通項とする現象として——今日では「イスラーム復興」と総称される現象として——認知されるようになった。ソ連崩壊と共に、中央アジアのイスラーム諸国が独立し、中東におけるイスラーム復興と連関する動きを見せたため、これも地域の変容を予見させるものとなった。

東南アジアの中では、インドネシアはイスラーム復興と縁が薄いと考えられていたが、ここでも、社会や政治におけるイスラーム復興が顕在化するようになった。南アジアは、パキスタンをはじめとして大きなイスラーム人口を抱え、イスラーム復興の面でもしばしば先導的な役割を果たしてきたが、近年にはアフガニスタンを媒介として、中東／西アジアと南アジアの境界が溶解する傾向も見られるようになった。

とはいえ、このような地域の変容ないしは再編への動きに対して、組み替え後の新しい地域区分を考えることは必ずしも正当ではない。なぜなら、それは地域の区切りを固定的に考える発想を内在させているからである。

この小特集で、「環インド洋地域」という形で中東／西アジア、南アジア、東南アジアを連関的

にとらえようとしているのは、新しい地域区分を提案するものではなく、地域をより連関的に考えようとする問題意識を示している。

第二の問題意識は、そのように地域を動態的に連関させて考えた場合に、イスラーム復興の諸現象をいかにとらえるべきか、というものである。グローバル化などとともに、イスラーム復興が地域の変容をうながしているとすれば、イスラーム復興そのものについても、そのような地域の変容を繰り込んで考察する必要があるのではないか。それによって、イスラーム復興についての新しい「眺望」を得ることもできるのではないか、というのが、編者らの構想である。

この小特集では、環インド洋の２つの地域、東南アジア、南アジアからの考察と、米国の対外政策から見たイスラーム世界についての論考を収めた。上に述べたような問題関心からいえば、東南アジアや南アジアにおけるイスラーム復興の具体的な事例や、国際システムと地域のあり方に大きな影響力を持つ米国がイスラーム世界に対してどのような認識と政策を持ってきたのかは、貴重な知見を提供するものであろう。

この小特集はシリーズとして、今後も続けて、視座の検証や事例研究を重ねたいと考えている。

（小杉 泰）

※　この小特集は、文科省科学研究費助成金基盤研究（A）「環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理」の成果の一部をなすものである。